

風土記の丘の花だより 185

今、そしてこれから見られる植物（2023年5月10日）

お休みが続いたので、発行日が変則的になり申し訳ありません。

しばらく見ないうちにエゴノキが満開になりました。万葉植物園の階段を上って行って、最後の階段の右側を見上げてください。たくさんの白い花が下向きに咲いています。でも、これをご覧に



なる頃には落ちた花の方が多いかもしれませんね。写真は、下から見上げた様子ですが、下にもたくさん落ちているはずですので、手にとって観察してみてください。今、お庭のシンボルツリーとしても好まれているようですし、公園などで見かけることもあります。花のあとには小さな実ができ、昔はそれをすりつぶして、川などに流し、魚を麻痺させて捕る漁法もあったようです。そんな毒があり、口にするととても「えぐい」ので、えぐの木から、エゴノキになったといわれています。



柳川家の北、大池のほとりにひときわ大きなアキニレの木がありますが、その根元でイボタノキの白い花が咲いています。あまり聞き慣れない名前ですが、花も小さくて目立ちませんが、なかなか可憐な花です。もっと詳しく探せば他の場所にも生えているのですが、私は風土記ではまだここでしか見ていません。他にも生えていたら教えてください。モクセイ科の木ですから、よくご存じのヒイラギやキンモクセイなどと同じ仲間になります。



今回は白い花が続きますね。これはマルバウツギの花です。ウツギは以前にも書いたと思いますが一つのグループではなく、茎が中空の木によく付けられる名前です。「空ろ木・うつろぎ」でウツギなのです。少し古い図鑑ではユキノシタ科となっているかもしれませんが、今はアジサイ科となっています。名前の通り葉が円く、葉柄もなく、茎を抱くようになっています。いつもハナムグリやハチ、アブなどでにぎわっています。



最後も白い花です。そしておまけにきれいなカミキリも紹介します。ガマズミの花です。この季節になると、独特の香りを放ちながら直径10センチほどの花を枝先いっぱいにつけます。といっても一つひとつの花はとても小さく、数ミリ程度です。それがいっぱい集まって一つの大きな花のように見えているのです。この花の香りは昆虫にはたまらなるとみえて、たくさん集まってきます。写真はミドリカミキリです。名前の通りエメラルドグリーンですが、金茶色の個体

もあり、さらにそれが光の加減で様々に変化し、とても美しく輝きます。

松下

